令和４年度 第１回安曇野市総合教育会議　会議録

日　時：令和４年12月27日（火）午前10時00分

場　所：安曇野市役所４階　大会議室

＜出席者＞

安曇野市長　太田　寛、教育長　橋渡勝也、教育長職務代理者　須澤真広、
教育委員　横内理恵子、教育委員　二村美智子、教育委員　羽田野賢二

＜補助のため出席する者＞

教育部長　矢口泰、学校教育課長　太田雅史、
学校教育課教育指導室長　臼井慎詞、学校教育課教育指導室指導主事　矢野司、
学校給食課長　髙橋秀行、生涯学習課長　深澤与志章、文化課長　山下泰永、
子ども家庭支援課　西澤弘修、こども園幼稚園課　佐々木真貴

＜事務局＞

学校教育課教育総務係長　山田なつ子、学校教育課教育総務係　岩月風香

＜傍聴者＞

報道機関　２名、傍聴人　10名

◎開　会

教育部長　それでは定刻となりましたので、ただ今から、令和４年度第１回総合教育会議を開会いたします。

本日の進行を務めさせていただきます、教育部長の矢口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の総合教育会議は公開として行いますので、よろしくお願いします。

また、会議録作成のため、ご発言の際は名前をおっしゃってからお願いいたします。

すみません、ここからは着座でお願いします。

◎市長挨拶

教育部長　初めに、太田市長からご挨拶をお願いいたします。

市長　皆様おはようございます。

第１回目になります安曇野市の総合教育会議、今年初めてでございますが、開催いたしましたところ、教育委員の皆様におかれましてはお忙しい中ご出席を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。また、平素から安曇野市の教育行政全般に対し大変なご尽力を賜っておりまして、重ねてお礼申し上げます。

この総合教育会議でございますが、平成27年４月に地方教育行政法の一部改正がございまして、総合教育会議というものを設置せよということでございます。その使命の中には、教育大綱の策定でございますとか、重点的施策を進めるものの決定でございますとか、あるいは緊急の場合の対策と、そういったこととなっておりまして、教育委員の皆様と首長ということで私が構成メンバーでございます。

安曇野市の今の教育といいますか、子どもたちを取り巻く環境の中で、やはり課題となっておりますのは少子高齢化の問題でございます。高齢化の問題もさることながら、少子化については毎年出生数が減っていると。小学校の入学者数が減少傾向にあるということでございます。

また、それと若干関連いたしますけれども、明科地域というのが今年10月１日から、いわゆる一部過疎地域に指定されまして、その持続的発展を目指す計画というのもさきの12月市議会において承認をいただいたところでございまして、これに基づきまして、明科地域はもとより安曇野市全体の活性化を図ってまいりたいと考えております。

児童生徒を取り巻く環境、健康問題については、私も就任以来、重点的な事業の一つに捉えておりまして、今年の４月１日からは18歳未満のお子様に対する医療費の無料化を進めましたし、あるいはインフルエンザに関わる実費の市からの補助金の創設、あるいは新生児のオプショナル検査に対します市による全額負担というようなこともやってまいりました。

それから、児童センターの拡充でございますとかそういったことも、スピード感というのを考えていただきたいということを市職員の皆さんにいつも申し上げております。

この４月からは組織を改編いたしまして、教育部局に子ども家庭支援課、それからこども園幼稚園課、こういったものを一緒にいたしまして、幼保小中と一貫して教育委員会でそれを携わるということにしたところでございます。

本日は教育委員の皆様と率直な意見交換を行いたいと考えております。安曇野市立のこども園・幼稚園・小学校・中学校の特色、そしてその魅力を高める安曇野市の教育行政ということを考えてまいりたいと思っておりますので、是非よろしくお願い申し上げたいと思います。

よろしくお願いします。お世話になります。

◎教育長挨拶

教育部長　続きまして、教育委員会を代表し、橋渡教育長からご挨拶をお願いします。

教育長　本年度第１回の安曇野市総合教育会議の開催に当たり、教育委員会を代表いたしましてご挨拶申し上げます。

太田市長におかれましては平素から市の教育行政に多大なご尽力を賜り、また、本日は、「安曇野市立こども園・幼稚園・小学校・中学校の特色と魅力を高める安曇野教育の在り方について」のテーマで総合教育会議を開催していただきますことに感謝と御礼を申し上げます。

今朝は一段と冷え込むお寒い中でございますけれども、傍聴の皆様方には足を運んでいただきましたこと、誠にありがとうございます。

さて、安曇野市には園児が約2,400人、小学校児童が約5,000人、中学校生徒が約2,600人、合わせますと、およそでございますが１万人の子どもたちが学んでおります。その保育・教育は公立園19園、小学校10校、中学校７校、この現場において日々教職員によって保育・教育が展開されているわけですが、その教職員の数もおよそ1,000人という数でございます。

私ども安曇野市教育委員会は、ここにおられる４名の教育委員の皆様と共に、これまで園・学校に足を運んで、保育・教育の実際場面を目で見て、肌で感じて、その良さや課題をつかむ努力を重ねてまいりました。校長先生や教職員とも懇談をする中で、助言をさせていただいたり、また、必要な支援をそこから新たに展開するというようなことも続けてまいりました。本日は、委員の皆様が学校や園を訪問した１年間のご経験も踏まえながら、お考えをお出しいただけるものと期待申し上げます。

この総合教育会議を通じまして、明日からの安曇野市の明るい未来を共に語る場になることを心からご期待申し上げてご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

◎安曇野市立こども園・幼稚園・小学校・中学校の特色と魅力を高める安曇野市教育のあり方について

教育部長　それでは、議事に移ります。

議事の進行につきましては、この会議の主宰者であります太田市長にお願いいたします。

市長　それでは、議事の進行をさせていただきます。

議題としまして掲げております安曇野市立こども園・幼稚園・小学校・中学校の特色と魅力を高める安曇野市教育の在り方につきまして、資料が提出されておりますので、事務局から説明をお願いします。

なお、説明に関しましては簡潔な説明をお願いいたします。

教育部長　資料の説明につきましては、担当課長からご説明いたします。

こども園幼稚園課長　令和４年度の安曇野市立認定こども園・幼稚園の園児数・学級数が資料に示されております。近年ですが、ゼロ、１歳児クラスの入園が増えております。３、４、５歳については定員に空きがございまして、余裕がある状況でございます。

以上です。

学校教育課長　私からは、２ページ、安曇野市立小中学校の児童生徒数・学級数についてご説明いたします。

まず、来年度の中学生の入学見込み数は、今年度の入学生であった現中学１年生の人数と比較して、減少というよりも逆に増加するような形となっております。ただし、来々年度になりますが、中学に進学する児童である現在の小学５年生が80人程度と人数が少なくなりま

すので、また減少に移るような形になります。

また、小学生の入学見込み数については、今年度入学生であった小学１年生の人数と比較しますと30人程度減少する予想となっております。

また、細かく見てみますと、豊科東小学校、明北小学校は全学年が単級、すなわち１学年１クラスという形になっておりまして、明南小学校も２年生と５年生を除いては１クラスという形になっております。

来年度の入学見込みも、豊科東小学校18人、明北小学校10人、明南小学校26人となっておりまして、今年度さらに減少をするような形になっております。また、明北小については、このままですと来年度の４月時点で児童数が100人を切るというような状態になります。

以上になります。

続きまして、３ページ、各課の園・小学校の特色と魅力を高める取組と新展開ということでご説明させていただきます。

まず、令和４年４月の組織改編によりまして、教育部局が学校教育課・学校給食課・生涯学習課・文化課・子ども家庭支援課・こども園幼稚園課の６課体制となりました。子ども、子育て、家庭支援業務の一元化を図るため、福祉部と教育部に分かれていた子どもに関する業務を教育部に統合いたしまして、一貫した理念の下、保育・教育が行える体制を整備いたしました。また、教育に係る相談を必要とする市民の利便性を高めるため、児童から18歳までの子どもや子育てに関する家庭への支援や相談業務を教育部に一元化いたしました。

まず、教育部学校教育課についてご説明いたします。

学校教育課では、未来を担うたくましい安曇野の子どもの育成を目指し、安曇野市立小・中学校の将来構想として、コミュニティスクールの活性化、小中一貫教育の導入、「安曇野の時間」の創設を重点に据えて、各課との連携を高めながら各事業を実施しております。

まず、小中学校の特色と魅力を高める取組についてですが、市教育委員会では今後重点的に取り組み、研究していく事業について、市研究指定校を設置しております。

まず、小中一貫教育については、３年前から明北小学校、明南小学校及び明科中学校の３校が市の研究指定推進校として、互いの学校の授業参観や教職員合同研修会、児童生徒の交流や合同授業などを通じて小中一貫教育の在り方について研究をしております。

ＩＣＴの活用については、豊科南小学校、穂高北小学校及び穂高東中学校の３校が市のＩＣＴ機器を活用した授業づくりの研究指定校になっております。１人１台の端末を活用した主体的・多様的な学びづくりの研究ということで、外国語学習におけるデジタル教科書の活

用を通した主体的・対話的な学びの在り方の研究、また、全県に向けたオンライン公開授業を通した情報発信や、ウェブ会議システム、Ｚｏｏｍを活用したオーストラリア小学生との交流学習を実施しております。

続きまして、地域連携につきましては、堀金小学校、堀金中学校の２校が研究指定校となっており、地域と学校の連携、協働体制づくりに関する研究に取り組んでおります。地域公民館を拠点とする地域学校協働活動の一層の充実、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進による安曇野市コミュニティスクールの活性化を目指しております。

続きまして、キャリア教育につきましては、これまで行われてきた中学校職場体験学習を見直しまして、児童生徒が主体的な探究学習を行う過程で、市役所・公設施設・企業・農家・福祉施設・ＮＰＯ等、地域の多様な大人たちとの対話を通して、地域理解と業務内容に含まれるような学習の展開を期待し、本年度は堀金中学校を研究指定校として、キャリア教育のカリキュラムにキャリアフェスティバルの活動を取り入れて実践し、安曇野の子どもを語る会で生徒が成果を発表いたしました。

続きまして、学校運営協議会と地域学校協働活動を一体化した安曇野市コミュニティスクールの活性化についてご説明します。

地域連携の指定校のところでも若干説明いたしましたが、安曇野市は学校と地域の連携協働をより強化するために、従来の信州型コミュニティスクールの事業から、国の進める学校運営協議会制度に倣った新たな安曇野市コミュニティスクール事業へと発展させ、この４月からスタートさせております。

この事業は、地域と共に学校づくりと学校を核とした地域づくりの実現を図ることを目的として、地域住民が委員として学校運営に関わる学校運営協議会と、学校と地域が共に行う地域学校協働活動を一体的に推進し、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みとなっております。

事業推進の重要な役割を果たす地域学校協働活動推進員は、市教育委員会より委嘱され、所属する各小・中学校で学校運営に資する活動を行う一員として、学校の実情に応じて様々な協働活動の連絡・調整を行い、学校の担当職と共に学校と地域の方々をつなぐ役割を担っております。

続きまして、日頃の探究的な学びの発表の場としての中学生議会の開催についてご説明いたします。

昨年度まで実施していました中学生議会では、教育委員会で用意した幾つかのテーマの中

から生徒に発表したいテーマを選択し、その内容について研究をした上で、当日の質問・提案をしていただいていましたが、今年度につきましては、ふるさと安曇野について総合的な学習の時間やその他の教科学習で培ってきた見方・考え方や、探究的な取組の集大成として発表・質問・提案したいという生徒のチームを募集し、４校４チームに参加していただきまして、11月23日に開催いたしました。

生徒たちの提案や質問に対して、当日市長は出席できませんでしたけれども、副市長、教育長及び担当部局の長が答弁をいたしました。

続きまして、新展開としましては、まず、体力向上と成長の土台づくりを支援するコオーディネーション運動の定着化、自力登下校の一層の推進というところです。

コオーディネーション運動とは神経系に視点を置いたトレーニング方法でありまして、動きやすい体をつくって自分の体を思いどおりに動かせるようになることを目的としております。幼児期の体力づくりを引き上げていく事業になります。

安曇野市スポーツ推進計画で策定されている事業と連携し、学校教育課にコオーディネーショントレーニング普及資格者を配置いたしまして、継続した取組として今年度より実施しております。

令和５年度からは低学年中心に、体育の準備運動の時間帯への導入と、体力づくり、運動の単元での導入を、また、教職員のトレーニング指導と講習会や中学入学までの子どもたちへの指導を継続し、中学校へ引き継いでいく予定であります。

続いて、「安曇野の時間」推進委員会、学区内小中英語科教科会等についてであります。

まず、「安曇野の時間」推進委員会につきましては、各学校より推進代表者を選出し、総合的な学習の時間、教科横断的なカリキュラムによる全員構成の見直しを行い、各中学校区における情報交換や情報発信を行います。

また、９年間のキャリア教育計画の立案とキャリアフェスティバルの講習を行います。堀金の実例モデルも参考にいたしまして、地域の産業界や行政等との連携をしながら、中学生が大人と共に企画・立案から運営に携わることのできるキャリアフェスティバルの実施を目指します。

次に、学区内小中英語科教科会についてですが、これについては外国語教育連携委員会の取組の一つとなります。

外国語教育連携委員会では、９年間を通じた学びのつながりの中で、英語を使って何ができるかを研究し、チェックリストを軸として小中９年間の連続性のある課程を通しますが、

それを実現するために、学区内で小中英語科教科会や授業公開、授業参観等を通しまして、教職員の連携・協働体制づくりを図っていくものでございます。

学校教育課からは以上になります。

学校給食課長　学校給食センターの取組といたしましては、学校給食理念に基づく安曇野産・長野県産の食材を積極的に取り入れた地産地消の推進、また、旬の食材を積極的に取り入れ、地域の伝統食や季節の行事食などの提供に努めているところでございます。

米は全て安曇野産を使用し、より環境に優しい特別栽培米につきましても年１回提供しており、今後拡大していきたいと考えております。

地域食材を意識した献立「安曇野の日」を毎月１回実施するなど、児童生徒に人気が高い献立に地元食材を積極的に取り入れながら提供に努めております。

新しい取組としましては、小中一貫教育の趣旨によりまして、豊科南中学校を豊科南小に給食を提供している南部給食センターが担当し、同一中学校区の小中学校への同一センターからの給食提供が早期に実現できるよう調整を行ってまいります。

食材の生産者等の交流給食など、安曇野らしい食育の推進、農政課と連携した「手作り弁当の日」の支援について今後も行ってまいりたいと考えます。

学校給食課からは以上になります。

生涯学習課長　生涯学習課の取組についてご説明させていただきます。

今年度から始まりました安曇野市コミュニティスクール事業の一環として、各地域公民館において地域学校協働活動本部連絡会を設置し、学校づくり、地域づくりにつながるネットワークの拡大、情報交換を行っております。

活動の一例といたしましては、資料にもお示ししてございますが、安曇野市社会福祉協議会の事業である朗人大学の中で、小中学校に出向き、講座の開催、授業参加など学校施設を分校とした活動を開催しております。

また、各種講座・文化祭・運動会などの公民館事業の中で、園児から中学生を対象とした事業を開催しております。

生涯学習課からは以上となります。

文化課長　文化課の事業をお話しいたします。

まず初めに、幼児期から本に接する機会、あるいは音楽に接する機会というものを重要に考えて事業を進めております。

それから、図書館では調べ学習のレファレンスを行っております。それから、幼小中・児

童館・児童クラブへの配本を行っております。

それから、児童生徒の、芸術家との交流機会を多くするということを重点に考えております。例えば、東京藝術大学の音楽部から市内吹奏楽部への楽器演奏指導、それから、ＡＩＲ、アーティスト・イン・レジデンスということで、アーティストが安曇野に滞在をして小学生と触れ合う機会、あるいはワークショップということで講座を行うといった事業も昨年から始まっております。

それから、能楽というような、伝統文化に触れ合う機会とか、あるいは創作ダンスをやっているダンサーの皆さんの活動を見ていただくとか、そういったことを進めております。

また、市内には美術館・博物館が、公立・私立も含め数多くあります。美術館・博物館からご協力いただきまして、芸術作品、それから博物館資料を学校に持ち込みまして、本当に間近で触れていただくような学校ミュージアムという事業を進めております。今年度は４校で行っております。

それから、これは主に博物館になりますが、総合的学習の中での出前講座も行っております。

また、音楽家を目指す方たちの人材発掘ということと活動機会の創出ということで、オーディションを開いております。新進音楽家オーディションになります。そこで選出された皆さんにコンサートに出演していただくというようなことも行っております。

それから、安曇野の自然を知っていただくということで、ちくに生きものみらい基金という活用事業を行っております。

昨年から平和学習の推進ということで、広島原爆資料館の資料、それと安曇野にも残っております戦争遺跡の資料を博物館でまとめていただきまして、そういったものを学校で巡回展示をして平和学習に役立てていただくということ、それから、今年から広島の被爆ピアノの演奏会も進めております。

今後ですが、芸術系の大学とより一層、小中学生との交流を進めていきたいと考えております。平和学習の推進につきましても今後一層進めていきたいと考えております。

文化課からは以上です。

子ども家庭支援課長　当課の取組についてご説明をいたします。

まずは、放課後子ども教室、わいわいランドです。

わいわいランドは毎週水曜日、小学校の体育館や校庭等を活用して、子どもたちが思い切り遊ぶことを願い開催をしております。わいわいランドは地域の皆さんがスタッフとなり、

子どもたちの活動を見守ったり一緒に遊んだりということをしていただいております。現在、市内の933名の児童にご登録いただいております。

続きまして、放課後児童クラブです。

放課後児童クラブは、放課後、土曜日及び休校日に就労等の事情により保護者の方が家庭にいない小学校児童に、安全な居場所を提供することを目的に実施しております。児童クラブは現在、児童館の他、各小学校の教室等で実施をしておりまして、本年度登録をいただいた方が1,218名となっております。

児童クラブの受入れは、堀金小と穂高北小を除き４年生までとなっておりますが、６年生までの利用拡大を望む声が多くあります。現在、小学校等のご協力をいただきまして、学校施設内等での児童クラブ施設の拡大に取り組んでおり、全ての小学校で６年生まで利用できるように早急に進めてまいります。

最後になります。子どもが学校以外でも生き生き活躍できる場の支援でございます。

当課では子ども学芸クラブ等、子どもが学校以外での活動をしている団体に補助金を交付する事業を行っております。その他、子どもの学校外での活動支援を行っておりますが、その一環といたしまして、毎年穂高交流学習センターみらいで子どもたちだけの文化祭、安曇野市子ども文化祭を実施しております。

文化祭では作品展示の他、ステージ発表を行い、ともに培ってきた技術・能力を発表してもらう場としておりますが、本年度は作品展示を11月12日から15日間、ステージ発表を11月26日土曜日に実施いたしまして、展示としては108作品展示、ステージ発表では、コロナ禍ではございましたが、入場者を含め311名の方にご参加をいただいております。

以上です。

こども園幼稚園課長　こども園幼稚園課の事業についてご説明をいたします。

あづみの自然保育ブランディング事業で、本年度はあおぞら認定こども園の園庭にミニ田んぼをつくりました。

安曇野市には外に出ると至るところに田んぼがありますが、その風景が私たちにとっては当たり前となっているのかもしれません。この事業を始めるときに、なぜ園庭につくったのかというご質問を受けることがございました。送迎の際に、親子で足を止めて、「今日種まきしたんだよ」だとか、「田んぼでこんなことがあったんだよ」ということを、子どもたちが保護者に話す姿が見られました。親子で共有できることが子どもたちにとってはとてもうれしい経験となりました。

稲を他園に分け、他園でも、たらいの中に田んぼをつくることができました。

稲刈りのときには農業委員の方が手伝いに来てくれました。「今度大きな機械を見せてやるからな」、「田植えや稲刈りを見においで」と声をかけてくれました。田んぼづくりをきっかけに、地域の方との交流や、いつもある田んぼですが、本物の大きな田んぼを、改めて関心を持って見せてもらうことにつながりました。

市内の園でこのあづみの自然保育についてやっているところなのですが、子どもたちは、私たちが願う子どもたちの姿として、いつでも探究心を持って、これは何だろうという、そういう姿を持って遊んでいます。自分で見つける遊びは楽しいです。風の匂い、友達、木、味など五感で感じ取っています。この姿がその子のこれからの人生の大きな基になってくれていると信じております。こんな姿を今、外に向けて発信しているところです。この点については引き続き力を入れていきたいと思っております。小学校に行っても、この経験が無駄のないようにつながってほしいと願っているところです。

こども園幼稚園課は以上です。

学校教育課長　続きまして、教育部以外の部局の取組について、私から説明させていただきます。

まず、総務部総務課です。広島平和記念式典参加事業、これは平成24年度から実施されておりまして、令和４年度は３年ぶりの実施となっております。市内７校から13名が参加いたしました。本事業は本年度を含め延べ９回行っておりまして、119人が参加しております。

続きまして、総務部税務課でございます。安曇野市租税教育推進事業といたしまして、税務官庁、教育関係者及び税務関係団体が協力して、国税及び地方税に関する租税教育並びに税務広報を推進し、税に対する理解と納税意識の高揚を図ることを目的といたしまして、安曇野市租税教育推進協議会を設置しております。

取組といたしましては、中高生の税に関する作文及び税に関するポスターの募集・表彰、また、税を考える週間の行事等への参加の協力等がございます。

続きまして、保健医療部健康推進課ですが、幼若永久歯の虫歯予防ということでフッ化物洗口を行っております。

また、摂食相談や支援を行い、健全な口腔機能の発達を促すということで、認定こども園等の歯科保健指導、摂食相談を行っております。

また、幼児期の弱視の早期発見ということで、保育施設視力検査を行っております。

それから、小児期からの生活習慣病、特に糖尿病の関係ですが、発症予防を行うというこ

とで、小・中学生血液検査実施後の健康相談等を行っております。

また、インフルエンザの重症化予防及び子育て世帯への経済的支援ということで、任意予防接種支援事業を行っております。

続きまして、商工観光スポーツ部観光課ですけれども、早春賦まつり、早春賦の持つ詩の心を広く長く後世に残すことや、早春賦を愛する心を通して人と人の輪を広げることを目的として開催をしております。

説明は以上になります。

教育長　それでは、最後に私から全体を通して一言申し上げたいと思います。

ここにパネルを持ってまいりました。安曇野市はこの４月から、こども園・幼稚園・小学校・中学校を所管することになりましたので、その決意をはっきり表そうということで、園児・小学生・中学生を、ライチョウの雄・雌、ひなとして表現しまして、この雄大な北アルプスの麓で育んでいこうと。そして、メインの目指す姿は、「未来を拓くたくましい安曇野の子ども」というふうに改めて定めまして、こども園等にもこのステッカーを掲示して４月から取り組んできたというところでございます。

私のほうから補足、以上でございます。

市長　各課より説明がございました。

委員の皆様から、今説明のあった事項、それと、併せまして関連することにつきましてご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

須澤委員からいかがでしょうか。

須澤委員　ご指名いただきました、ありがとうございます。

全17校への学校訪問も、あと２校を残すだけになりました。各学校、校長の下に教頭、そして先生方と共に学校方針を掲げて前向きに取り組んでおりました。

今、学校教育課長から説明がありましたが、コミュニティスクールというものが各学校でどのように認識されているのかということを、私としては関心を持って訪問させていただきましたが、メインではありませんでした。

どうしても学校中心の教育になっていると。つまり、地域の皆さんのお手伝いなり、地域の皆さんのお考えを取り入れるなりというところをもう少し加えていただくと、地域に必要とされる学校になるのではないかと。

現在この安曇野市からも松本地域の小中一貫校、また中高一貫校へ通っている生徒も児童もいるわけですので、保護者の方にやはり地元の学校へ進学させたいという気持ちを持って

いただく、その特色をどう出すかという認識を、是非各学校では来年、力を入れてほしいと思いました。

取りあえず一言申し上げました。

市長　ありがとうございました。

羽田野委員、お願いします。

羽田野委員　今回の議題、安曇野市のこども園・幼稚園・小学校・中学校の特色と魅力を高めるということなのですが、この魅力というのは何かと考えたときに、誰にとっての魅力かということを考えると、やはり児童生徒、そこに通う子どもたちにとって魅力ある学校・園である必要があると考えました。

事務局に質問させていただいてもよろしいですか。

市長　どうぞ。

羽田野委員　今現在、安曇野市の学校で不登校の児童生徒は何人くらいいて、ここ数年の推移はどうかということを教えていただきたいです。

市長　事務局、どなたでも結構です。

教育指導室長　推移ですが、令和２年度、そして令和３年度の間に、小中合計で約56名の増加となっております。

一方、本年度ですが、９月30日までの上半期におきまして、不登校児童が78名、不登校生徒113名と、統計上の数にはなりますが、そのような数が見込まれております。

羽田野委員　ということは増加傾向にあるということですね。

その原因は様々あるかと思いますが、学校が児童生徒にとって魅力的な存在であるとすると自然に学校に通いたくなると思うんです。そのためには、やはり魅力ある学級ですとか魅力ある授業などが必要だと思います。

魅力ある学級とは何かと考えると、児童生徒が学校に行きたいと思うこと、それには学級が安心・安全であること、つまり居心地がいい場所であるということが大事ではないかなと思っています。

それから、学校はやはり授業をするところですので、児童生徒にとって魅力的な学びの場であるということもすごく大事で、授業が分かりやすいとか、できるようになったという声が聞こえるような学びが必要だと思います。

学校訪問で幾つかの学校を回らせていただきましたが、学び合いという授業をされているところが多くて、これも安曇野市の全部の学校で進めているところだとお聞きしているので

すが、先生が一方的に授業を進める一斉授業ではなくて、お互い関わり合って学び合う形、グループワークが行われていて、そこでは児童・生徒同士が教え合う姿ですとか、分からないことを分からないと言える雰囲気ですとか、間違ったことを言っても大丈夫だという雰囲気づくりがされていて、そういう雰囲気ができていれば授業は楽しくなるし、学校に行きたくなるのかなと思います。

このようなことは小さなことかもしれませんが、学校の魅力という意味で考えると大きな役割を果たしていくと思っていて、その雰囲気が授業以外、学校生活の中でもいい影響を与えているのではないかなと私は思っていて、こういったことが安曇野市全体でもう少し広まっていけば、学校の魅力が上がってくるのではないか、児童生徒にとっての魅力というのが大きくなっていくのではないかと思いました。

以上です。

市長　二村委員、どうでしょうか。

二村委員　市の児童生徒の育ちのために、教育委員会、教育委員としてそれぞれの立場の方、地域の方々との対話をしてまいりました。私自身は教職に就いた経験はなく、一市民という立場で教育委員に任命されたので、荷が重いと感じながらも、子どもの育ちを考えることにわくわくしておりました。

市内17校の学校訪問が、感染対策をしながらですが、再開いたしました。教室に入ることができました。どの学校からも常念岳等の山々を見ること、これも楽しみの一つになっています。

教室に入ると、校長先生、教頭先生と言って手を振る子や、にやにやしている子、笑顔の子がいて、本当にうれしそうにして、マスク越しですけれども体で喜びを表現しています。楽しい、うれしい、そしてその子どもの心がふと動いた、その瞬間を見ることができたときはとてもうれしく思います。

先生方も身を低くして話を聞いていらっしゃいます。笑顔です。校長先生というのは学校教育に関する仕事全てをつかさどる影響力と決定権を持つという役目があります。先ほどお話にありました不登校児童生徒が増加傾向にある、学校に行けなくなっている、この事実に真摯に向き合って、学校づくり、居場所づくりに現場の先生方はとても尽力されていると思います。ですが、子どもたちの未来のために、校長先生がリーダーシップを発揮できて、新しい考え方や捉え方、そしてアイデアが生まれれば、また居心地の良い学校が創造できるのではないかなと思います。

私どもは後押しできる体制の中で、地域の方々の声を届けるための組織、学校運営協議会があります。校長先生がつくった学校運営の基本方針を協議し、決定するのも役割の一つです。ボランティア会も学校の支援をするのに保護者や地域の方々が参加できます。地域と共に学校づくりができます。

少子化で、地域のつながりも少し減ってはおりますが、地域の方々には授業の補助であるとか、ふるさと教育であるとか、キャリア教育とか、支援をいただいております。また、ボランティアとして、本の読み聞かせや安全な登下校の見守りも継続的にやっていただいております。

コミュニティスクールの中で、地域と共にある学校づくり、学校だけが頑張るのではなくて、教育委員会も伴走いたしますが、キャリア教育に私は注目をしております。小さい頃からお店屋さんごっこの好きな未就学児もいると思います。市内企業の方からいろいろなことをお教えいただき、そしてそこから自分の未来の姿を想像するということにとても期待をしております。

農業に関わる方たちにはもちろん継続的に関わっていただいております。また、安曇野市、または近隣にある民間企業・団体、公的な仕事に就いていらっしゃる方や大学等で、学習応援団というものを結成していったらどうかなという思いがあります。実施するのは土日に限らず、夏休みや冬休みであったり、平日の授業、放課後、また出前授業であったり、施設の見学などもできればと、そういう場を提供していただくための、そういう地域の方々の応援が欲しいという思いがあります。環境の勉強をするとか、ものづくり、そしてお金のこと、礼儀、スポーツ、地理であったり食育であったり伝統であったり国際理解であったり、いろいろなことに携わっていただきたいなという思いがあります。

以上です。

市長　教育委員会の方のお考えは後でまとめてお話をしたいと思います。

横内委員。

横内委員　市内17校のうちあと２校残っていますが、小中15校と、園も幾つか今年も学校訪問いたしました。この数年は教室を回って授業を見るということはかないませんでしたが、今年は授業の様子、一番は子どもたちの姿、先生の姿、ＩＣＴの活用の実態などを見させていただきました。

大きい学校、小さい学校、それぞれに良さ、また課題がありました。子どもたちはマスクをつけての学校生活で、はかり知れないストレスもきっとあると思いますが、楽しい学校生

活を過ごしてほしいなと心から思っています。

仲間と対話しながら学び合っている場面を、先ほど羽田野委員もおっしゃいましたが、たくさん見ました。今までは一部の学校の取組であった学び合いが全市に浸透してきているのが分かりました。黒板に向かって一斉授業を受けるスタイルから大きく変化して、お隣の子や数人のグループで意見を交換し合う授業をどの学校でも実践していました。今求められている学力は、知識の量ではなくて、知っていることを使って何ができるのか、どのように問題を解決することができるのかということだと思います。

また、１人１台の端末を使って、今までのように手を挙げた一部の子でなく、クラス全員の意見を知り合う授業も見ました。自宅から授業に参加している活用法もありました。小中一貫教育というものを大切にして、子ども同士の交流、また先生方も交流などしている学校もありました。

今年特に心に残ったのは、ジェンダーのことを鑑みて、制服を選べる学校というのが出てまいりました。ブレザー・スラックス、・スカート、どんな組合せでもいいと、子どもたちに選択の自由ができたことをうれしく思います。

多くの先生方は、より良い子どもたちの育ちを願って、日々子どもたちと向き合って一生懸命やってくれるということが分かりました。コロナで様々な制約が課される中で、工夫して行事を何とか行うという方向に進めてくださっていて、ありがたく思います。

一方で、校長先生が代わると、１年もせずしてがらりと学校の雰囲気が変わる、良くも悪くもなる、そのようなことも感じました。ですので、教育の理念が子どもや家庭や先生や地域で共有されて一貫していないと、先生の異動によってもろくもその学校の良さは崩れ去るということを感じました。

小中一貫教育を市が進めていく中で、学校目標を原点に、小中９年間で子どもたちが夢を持って学校を卒業できるように、子どもたちが夢を見つけるための機会づくりですとか、自然の体験、地域の高校や産業とのコラボなど、未来に羽ばたく子どもを育てるために、市ではこんなことができそうだという案を地域学校協働本部や学校運営協議会などで出し合えるといいなと思っております。

私は明科に住んでいます。過疎地域に指定されたということで、どうなるんだろうと思っていましたが、市長が明北小を残すということをおっしゃってくださって喜んでいます。安心している方がたくさんいるのではないかと思います。

明北小に通う子どもの親からは、明北小は一人一人を大切にしてくれてありがたいという、

そんな声をよく聞きます。市内小・中学校の将来構想の会議の中で、こんな少ない人数で競争社会の波に放り込まれて大丈夫かとか、競う力がつかないんじゃないかという意見がありました。でも、時代がもう競争とかいう時代ではなくなってきているので、今朝の新聞にもありましたが、個別最適化教育に県が重きを置いていくといったように、市もそのようにしていったら、安曇野市全体の発展にいずれ資することになるのではないかと考えます。

以上です。

市長　それぞれからご意見を賜りましたが、ひとまず断念するけれども今年まだこんなことがあるとか、別の委員の皆さんからのお話を聞いて、こんなことも言いたいということがありましたら是非お願いいたします。

須澤委員。

須澤委員　各学校にデジタル教科書が導入され、非常に有効に活用されていました。我々の認識でいきますと、チョークを持って黒板に書くというのが授業のスタイルでした。私も現場にいたときは１時間終われば服は真っ白でしたが、今は大きなディスプレーに児童生徒の持つ教科書が映されるんです。その時間の学習内容の部分にペンを持って先生が色をつけるんです。赤線を引くなり、文字を書き込むなり、生徒とのやり取りした言葉もそこに書けるんです。ＩＣＴを活用している一例として、私は市からデジタル教科書が用意されたということは非常に有意義だったと思いました。

市長　他の委員さん、気づかれたことあったら是非またお願いします。

羽田野委員　私も、横内委員おっしゃった明北小学校の関係で、人数が少ないことで足りないと思ったことは１つもなくて、むしろ学びの機会、成長の機会をたくさん与えてもらっていると思っております。

どういうことかというと、人数が少ないということで、やはり一人一人に課せられる責任が非常に重くなるというか、やりがいができているということ。一人一人の活躍の場が多いので、自然と自分の役割を全うするという気持ちが育っているのではないかと思っています。

すぐ隣の教室が違う学年になるものですから、おのずと縦の関わりができるので、年齢の差を肌で感じながら学校生活を送ることができる。サポートする優しい心ですとか、年上の子の立ち居振る舞い、それをお手本として生活している低学年の姿がよく見えます。早い段階から、縦の社会というか、そういうことを学ぶこともできているというのも一つあると思います。

先ほど横内委員もおっしゃっていたのですが、先生たちは、学年を超えて子どもたちとよ

く関わってくださっており、担任の先生だけではなく他の先生も積極的に子どもに関わっていただいているものですから、きめ細かい児童の指導をしていただいていると思っています。

人数が少ないということで足りないと思ったことも本当になくて、いい学校だと私は思っております。

以上です。

市長　先ほど横内委員と、それから今、羽田野委員から明北小のことが出ました。明北小の今後については教育委員会が主体になって考えることでございますが、私の考えで申し上げますと、私は外部の職のときに長野県の77市町村を全部回りまして、いろいろなところの教育も含めて広く見てまいりました。その際、一つどうしても気にかかることは、過疎の村、地域において、小学校の統廃合等を進めたときに、今まで小学校があった地域から小学校が消えると、昼間子どもたちがいなくなるということによって、その地域の皆さんの活力が失われるということを割と多くの地域で見てまいりました。

そういう意味で、私自身の考えとしては、明北小学校というのは今後是非残していきたいと。そのためには、ただ単に人数が少なくなるのを座視するわけではなくて、何らかの形で明北小学校に通える範囲を広げるとか、そういったこと考えなければならないと思っています。

差し出がましいんですが、幸いにして明科はこども園が民営化されており、そこでは自然保育という非常に活発な活動をされておりまして、他の地域からも随分、これ市内ばかりじゃなくて全県的にも注目を浴びております。

そういう意味において、その自然保育を生かした保育、それが小学校に上がったときも生かせないかという声もございます。これは橋渡教育長ともプライベートで何度か話をした中でそういう話が出ておるところでございます。

この点何か、橋渡教育長。

教育長　今、明北小学校のことが話題になっておりますので、少し地域の課題に特化したことになりますけれども、今、委員の皆様、あるいは太田市長からも話がありましたように、人数が少ない小規模な学校というのは、安曇野市全体から見ると非常に魅力に感じる皆さんも大勢いらっしゃるのではないかと思うんです。

先ほど明科北認定こども園の自然保育の特色についてもございましたが、明科北認定こども園には、あの周りの地域の人たちだけではなく、結構広域的にお子さんを通わせておられる方がいらっしゃいます。そこだけで完結するんじゃなくて、さらにもっと自然の中で伸び

伸びと、そして少人数を生かしたような小学校の教育も続けて受けさせたいと思ったときには、通学区というものがございますので、明北小学校の地域に住んでいないと基本的には明北小には入れないということになっております。

それで、一つこれは今後教育委員会の中でもしっかりと議論をしたり、また地域の皆様方と話をしていかなければならないことではありますが、小規模特認校制度というものがございます。近隣では松本市の安曇小・中学校が今年から導入して、そこに住んでいる人たちは当然明北小学校に通えるのですが、安曇野市内のどこに住んでいても明北小学校に通えるようになるという制度なんです。

もちろん何人でもいいというわけではなくて、一定の人数にはなりますが、募集をして、来ていただける、そんな制度もあると、安曇野市の教育全体がより魅力のあるもの、特色のあるものになっていくのではないかなと。

先ほど不登校のお話もございましたように、今、非常に多様な子どもたちが大勢いるわけです。ですので、大勢の中で過ごすことが得意な子もいれば、少しの人数の中で自分を発揮できるという子どももいるし、あるいは机に向かうよりも外で思い切り体を動かすほうが得意だというような、様々な子どもたちがいるわけです。もちろん保護者の皆様の多大なご支援もなければ通えないわけですが、そういう中で、もし希望すれば明北小学校へ行けるという制度ができれば、これはただ人数を増やすという発想ではなくて、多様な教育機会が生まれるという視点で、私は今後一つ検討していけばどうかなと、市長とそんな話をしたところでございます。

以上です。

市長　ありがとうございました。

その他にもコミュニティスクールの問題でございますとか、デジタル化についても肯定的なものも賜っておりますが、こういったところについて事務局でどなたか。

教育部長　ＩＣＴについては昨年から導入し、デジタル教科書ですが、それぞれの先生方が、あればいいということではなく、どうやって使うかを本当に一生懸命勉強していただいて、そして教育委員会からも矢野指導主事が学校に行って先生のお手伝いをしたりして、今進めているところです。まだ最適の結果が出ているわけではないと思います。先日、佐久のＩＣＴにとても詳しい校長先生に来ていただきまして、先生方の学習会なども行いました。これからどんどんいろいろなことも参考にしながら、進めていきたいと考えているところでございます。

須澤委員がおっしゃったように授業の進め方が変わって、もしかしたら、根本的に大きく変わるような時代が今まさに来つつあると思っております。

以上でございます。

市長　コミュニティスクールの在り方については何かありますか。

生涯学習課長　コミュニティスクール事業について一言お話しさせていただきたいと思います。

今までの説明にもございましたとおり、コミュニティスクール事業、学校運営協議会と地域学校協働本部連絡会という二つの組織で活動を行っているところでございます。それぞれの組織に共通する人たちでございますけれども、地域コーディネーター、社会福祉協議会の担当の方、また学校長がいらっしゃいます。

それで、本年４月から事業を進めていくに当たりまして、若干内部から意見をいただいておるんですけれども、幾つかご紹介いたします。

協議内容が地域活動に関しまして共通するところがあるため、連携の取れた話合いが必要ではないか、地域コーディネーターによる連携が不十分ではないか、学校の求める地域活動、地域が求める地域活動の情報共有が必要である、地域が目指す地域とは何かの情報共有が必要である、また、地域が目指す子ども像が学校グランドデザインと整合性が取れているのか等、そういったご意見をいただいております。

４月から始めておりまして、なかなかそういった課題をすぐ解決するというところまではいっておりませんが、今後事業を進めていくにあたって、少しずつこの連携を深めて、より良い事業にしていきたいと考えております。

説明は以上でございます。

市長　教育委員の皆様、あるいは事務局から、コミュニティスクールの取組がうまくいっているのは、例えばどんなところか、ご意見ございますか。具体的な学校名は答えられないかもしれませんが、もしできれば。

どうぞ。

須澤委員　このコミュニティスクールの形を市が率先してつくるより前から、活動をしているのが明科地区なんです。先ほどから様々な話が出ていますが、明科地区が先駆的な存在でございます。

明南小のＰＴＡ会長さんを歴任された方が中心になりまして、様々な、先生たちの気がつかないことや、先生たちができないようなことをリーダーシップを発揮してやっています。

例えば、学校へ来る途中のバス停で休んでいたら、そこを通った者が少し手助けをしたと

いうようなことや、通学路に木が飛び出していて邪魔だと、さっと行って対応してくれるんです。

明南小を中心にした組織が今も活動して、それが明科全体に広がってきていると思います。言えばこれがコミュニティスクールの具体化かなと思います。

市長　他の委員さんで関連したご意見ありましたらお願いします。

どうぞ。

横内委員　コミュニティスクールは市内17校どこの学校も大変活性化していると見ていて思います。家庭科の授業に入っていただいたり、ミシンの授業に地域の方が来て、担任の先生が分からないことを見てくださっていたりという様子を、学校訪問で見せていただきました。学校が困っていることを発信したときに手を貸してくれる、そういう仕組みづくりがここ数年ですごくよくできているなと思います。

登下校の見守りもそうですし、先日雪がたくさん降りましたけれど、自分の家より先に通学路を掃いてくださる地域の方の姿があって、本当にありがたいことだなと思います。

その中で、私ども学校訪問をさせていただいていますが、例えば学校運営協議会の方とかにも授業参観を是非していただきたいなと。委員の皆さんが地域の方々に自分の地区の学校の教育について、説明してくれるようになると思うんです。学校に入ることによって私たちもその学校というものをより詳しく知るということができましたので、運営協議会の皆さんにもそうしていただくことで、子どもの学びのために地域とのつながりが広がっていくのではないかということを思いました。

市長　ありがとうございました。

それから、先ほどの二村委員からキャリア教育についてのお話がございました。これに関しても教育長のほうで何かありましたら。

教育長　今年の中学生議会で、堀金中学校の生徒がキャリアフェスティバルというものをやった体験を発表してくれました。これは安曇野市では初めての試みで、これまで社会とのつながりというと、職場体験学習というのがどの中学校にもありまして、それぞれの学校で培ってきた様々な事業所等との連携の中で、子どもたちが行ってみたい職種の事業所を選びまして、そこへ行って今まで経験したことのないような経験をするというようなことをずっとやってきたのですが、それには私も限界を感じていたわけです。

つまり、中学生が体験できる仕事というのはその事業所や会社の本当に一部で、そこで働いている方々がどんな思いで仕事をされているのか、大人として職業というものをどんなふ

うに考えているのか、自分の生活や夢、どんなものを描きながらその仕事をされているのかというようなところとはあまり関係なくて、とにかく仕事の一端を経験するということが大事だというような視点の職場体験学習が多かったように思うんです。

それで、それをもう少し転換させたいということで、太田市長が就任されて、まず、上伊那に行くようにアドバイスをいただきました。上伊那ではキャリアフェスティバルというのを、まさに地元の企業の皆様が、上伊那という広域で子どもたちを支援しながら、子どもたちが主体になってやれるような仕組みができているから、是非見てほしいと言われて、私どもも視察に行ってきました。時を同じくして、堀金中でそれに似たことを始めようと動き出していたものですから、教育委員会では研究指定校として、今年それが見事に実現したわけです。

簡単に言いますと、堀金地域のあらゆる業種の方々に声をかけて、その方々に学校へ来ていただいて、ブースと呼んでいるテーブルで、事業所等から来ていただいた方と子どもたちが相対して話をするんです。話というのは事業所のＰＲではなくて、なぜ自分がこの仕事をしたいと思って、今何をやっているんだというような話なんです。

農業をやっている方は、今、農業はきつくてつらくて大変だというイメージがあるかもしれないけれど、ドローンを持ってきて肥料をまいているんだよとか、収穫したものをこんなふうに加工して、そして販売しているんだよとか、そういう話をしながら、こんなところが自分にとってうれしい、こういうふうになりたい、みんなはどうだ、毎日食べている米はこうやって作るんだという、自分の人生を語るんです。私は、それは中学生にとってすごく良いと思ったんです。

これまで職場体験というと業種が限られていたのですが、当日はお医者さんまで来てくださいました。昼間のお忙しい中、お医者さんが自分の仕事について語ってくれた。それを中学生が自ら企画したわけです。キャリア教育は、何か決まったルートに乗って毎年やっていれば楽なのですが、そうではなく、自分たちが苦労しながらも企画から携わって、そして人、大人を知るということが、自分が将来どうなりたいか、そういったことにとても役立つのではないかと私は思いますので、このキャリア教育の充実というのは非常にこれからも大事にしたい。

そのことが安曇野市を子どもたちにもっとしっかりと心の中に刻むことにつながるのではないかと。つまり、一旦外へ出ても、当時キャリアフェスで関わった人に憧れてまた戻ってきたいという気持ちになるのではないかと思って、この取組を是非広めていきたいと期待し

ているところでございます。

市長　ありがとうございます。

二村委員、いかがですか。

二村委員　大人としての姿勢を、前から後ろから見るだけでなく、お話を伺う機会があるということ、子どもたちの人生にとってはとても重要なポイントになるかと思います。

今年度堀金中で行われた、キャリフェスを自分たちで運営をして、考えて、そして人生を語っていただくという、そういう取組が全市内に広まっていけばいいなと思っています。

市長　教育長からお話がありましたが、補足させていただきますと、私が参考にしたらよいと言った上伊那地域では、ある企業のオーナーさんが非常に取組に熱心で、広域連合と協力して、それぞれの学校において先ほど教育長が説明したようなことをやっています。

私がビデオで見たのは、そこの小学校・中学校に子どもを通わせているお父さん、お母さんが壇上に立って、今私はどういう仕事をしているということを語るという様子を拝見しました。もちろん家でお仕事されている方もいらっしゃるんですが、お子さんからは、家で見ているお父さんやお母さんの実際の仕事について初めて知ったという意見が結構ございまして、これはただ単に将来の職業選択のことばかりではなくて、自分の家庭、家族を見直す機会にもなったんじゃないかと思っています。

上伊那は町村と市の連合でございますので、一つの町、村が全校の主催者になって年に１回みんなで合同の大会をやっておりまして、もう10年ぐらい続いております。私も６回ほど出ています。

そのたびに非常に感動しているのですが、中学生の方も相当出てきていますし、最後はみんなで、この地域を良くするために私がしたいことというのを大きな紙に書いて、みんなで掲げて、その写真を撮るということをやっていまして、非常に面白い取組で、多分今年もまだ続いていると思います。

今、橋渡教育長から申し上げましたように、今年は堀金だけですけれども、これを是非他の中学校でも参考にしていただいて、広げていっていただければなと思います。

やはりキャリア教育という形で、実際に最後どういう形で実を結ぶかというのは、それぞれの立場がありますけれども、それを知らずに職業選択をするのと、知って職業選択をするのでは意味が違うのではないかと私は思っております。

他に何かございましたら是非お願いいたします。

どうぞ。

須澤委員　視点が変わりますが、意見を申し上げます。

かつて大正時代、明科駅と田沢駅は安曇野平において非常に重要な駅だったんです。明科には大北地域からの産物が集まる。田沢駅は蚕の集積地であったんです。ですので、田沢駅周辺、国道沿いに大きな蔵を持つ店が多いのですが、両方とも学区になっています。その２つの地域の小学校へ通う児童が減ってきているということからも考えますと、様々な方策が必要であろうと。

先ほど教育長がお話しになっていました小規模特認校、これは非常に有効だと思うんです。私、先ほど申し上げましたように、各学校に、我が校はこういう教育をやるから来てくださいという姿勢が欲しいと思っています。

つまり、この学区の生徒はみんな来るんだから宣伝は要らないという考えは良くないと。例えば明科でいいますと、明北は少人数で、例えば１学年15人だとしますと、10人は地域の子なのですが、もう５人は他から来てもいいというように、明確にする。それから、明科の中学が明南も共に小中一貫教育を始める。現在英語は小学校４年生から学習していますので、小学校３年間プラス中学校３年間、一貫して英語を重点的にやると。英語についての教員を増やすべきだと思います。私は、明科地区には何か方策を立てる必要がある、教育面だけではそう思います。

それからもう一点ですが、先月でしたか、ブラタモリが安曇野の宣伝をしてくれて、明科の東山の上から展望していました。それほどに明科地域は非常に景観もいい。これはまだ売りが足りないと思います。そして、ブラタモリの中に何も出てこなかったのが文化面なんです。文化面の売りが安曇野市全体として足りないと思うんです。

ですから、安曇野教育という観点で、この安曇野に住んでもらって文化教育を受けてもらう、是非受けたい、そういう安曇野市になってもらえればと思います。

以上です。

市長　ありがとうございます。

ブラタモリ、見た方からいろいろなメールや電話をいただいております。番組の編成方針もあって、あまり美術館とか文化的なことには触れられなかったわけでございますが、安曇野市には20を超える美術館・博物館が、市立・民間を含めてございます。文化課としても学校ミュージアムというような取組をしておりまして、様々な意味でそういった美術館、博物館の蓄積を学校で生かすとか、あるいは生涯学習課では、市民の皆様の文化とか芸術に対する学習意欲を支えるための活動をしているところでございますけれど、今お話ございました

ように、学校そのものにおける文化学習についても考えていく必要があるのかなと思っております。

山下課長、学校ミュージアムについて補足ございますか。

文化課長　学校ミュージアム、私たちも見学に行きましたが、一番いいところは、それぞれの美術館・博物館の学芸員と相対して５、６名の児童生徒の皆さんが話ができるということ、それから、もう１つは、持ってきた作品を本当に間近で見ることができるということです。

多分児童の皆さんは、その日の体験を、家に帰ってお父さんやお母さんに話すと思うんです。今度はそのお父さん、お母さんを連れて美術館や博物館に行ったとき、あるいはもう少し大きくなって、友達が遊びに来たとき等に、安曇野の美術館を案内したり、私たちの市にはこんなすばらしい作品を作る人がいたんだよと、お友達にも話ができて、お母さんやお父さんたちにも紹介ができる。そういったことが郷土愛にもつながっていくことになり、自分たちの市の良さというものを小さいうちから育んでいくことにつながると思っております。

見学すると、子どもたちが熱心に学芸員に質問をしたり、実際絵を描いている姿を見たり、本当に真剣に取り組んでいる姿が大変印象的です。こういった事業を是非これからも続けていけたらと考えております。

以上です。

市長　あと、まだ検討中で正式決定ではございませんが、長らく薪能としてやっておりました明科における能、あれを行った場所に部署をつくるということもございまして、しばらく豊科でやっておりましたけれども、来年度からはもう一回明科に戻して、本来の薪能という形でやれないかということを今模索しております。

やはり地域と文化というのは根強く密着したものがございまして、そういった意味で、たまたま明科でいいますと、せっかく青木先生にやっていただいた能というものを一回明科の地で、しかも本来の薪能という形に戻したいなというのが私の希望でございまして、これについてはいろいろな問題がありますので、まだまだ検討がされておりますが、そういう方向で動きたいと思っております。

この際、是非様々な問題、学校教育に係ること、あるいはその他のことでも結構でございますので、委員の皆様からご意見ありましたら伺いたいと思いますが、いかがでございましょうか。

横内委員　今、明科北認定こども園は、特化型というくじら雲さんがやってきた週に15時間園外で過ごすという保育と、あと普及型の保育という２つの面を持っており、そういった保育

は長野県の中でも少ないと先月の定例会で佐々木課長が教えてくださいました。

けれど、移住してくる人の中には、自然特化の、自然の中で週15時間過ごさせたいということを目指して移住してくる方がいて、先月の定例会でも質問させていただいたのですが、すごく特化型でやるということをＰＲしていくのか、そうではなく全市で自然保育をやっているということをＰＲしていくのか、どちらなのだろうかと思いました。でも、移住したい方は皆さん自然特化を目指して来られているので、そのＰＲの仕方を工夫しなければいけないと思いました。

明科北認定こども園、訪問させていただいたのですが、ＳＮＳやユーチューブで発信しませんかとお尋ねしましたが、目の前の子どもたちに向き合うことを優先したい、かつてテレビで特集されたこともあるが、自分たちからは特にするつもりはないということをおっしゃっていたので、ここは市がバックアップして、外に向けて発信してほしいと思った点です。

あと、小学校・中学校はコミュニティスクールを通して地域とのつながりがあるのですが、こども園にはそういったものがあまりありません。地元で新しく始まったばかりのこの特化型の信州やまほいくというものを、地域住民の人たちは案外遠巻きに眺めている現状があります。地元が置き去りにされているような、そんな思いも地域にあるということも事実です。

やまほいくでの学びを明北小につなげていけたらということはとてもいい案で賛成ですが、地元の方々に対しての説明というか、分かっていただくことが必要だと思います。支えてくれる人が多い地域で、子どもとかお孫さんがいなくても運動会や音楽会に足を運んでくれる、そういう土地柄や地域性もあるので、一度やまほいくの魅力がうまく伝われば、地域の方もすごく応援してくれると思うんです。そういったところをお願いしたいと思います。

以上です。

こども園幼稚園課長　私も今お話を聞きながら、横内委員のおっしゃるとおりだと思いました。

明科北認定こども園は本年度から委託になっております。昨年は引継ぎをしておりました。今職員とも話しているところですが、１番は、地域の方に私たちの保育を知っていただきたいんですというお話しをしてくださっています。

今年度、たき火スペースもできました。どうやれば地域の方たちを巻き込むというか、一緒になって子どもたちを見ていけるかなということを一生懸命考えているところです。回覧板を回すのもそうですし、園の中にご招待する、そんなところを考えているということを職員の皆さんはおっしゃってくれています。本年度は１年目で、まだ整えているところなのですが、今後そういったことが実現していくのではないかと思っておりますし、私たちもそれ

を応援したいと思っております。

以上です。

市長　その他に、どなたでも結構でございますが、何かありましたら。

二村委員　現在建設中の三郷西部認定こども園に、３人の子どもたちとその父親も通っておりました。新しい園舎の完成に向けて工事が進んでおります。家の近くですから全体が見えます。ですからリンゴの収穫の時期はくぎを打つ音でしょうか、トントンと心地良い音が聞こえてきました。自然が豊かで、その資源を積極的に活用して、地域の人との触れ合いを生かした保育によって子どもたちが安心して自由に楽しく遊べる土台づくりはできていると思います。

園の設置は市でありますけれども、民営化が進んでいます。ここに至るまでには市からの説明がありました。そして、検討委員会や市からの回覧文書で地域には丁寧に報告をいただいております。地域の子どもたちの成長をどう守るのか、助けていくのか、保護者だけではなく地域の方々の関心も物すごく高くなりました。地域のリーダーの方々が地域の声を行政に届けてくださった結果、以前に増して地域が成熟をしたというか、厚みが増したというか、そういう印象があります。地域の特性を生かした子どもの笑顔が見える保育が続くように支えていただければと願っています。

前段でありましたけれども、小規模校とは別に、小さな園から大きな三郷小学校に入るのには、１クラスに１人、または２人くらいになってしまうので、親としては先生に気づかれないまま１日を終えるのではないかと、埋もれてしまっているのではないかと、学校で元気にしているのかとか、お友達はできたかとか、心配になったことは確かでありますが、親の思いとは反してお友達もたくさんできて、子どもの力は無限大だと思いました。

ちょっと外れてしまうのですが、私の常会は小さいのですけれど、４軒の空き家に入居された方々がいます。リモートでお仕事をされている方、果樹農家の方、ミュージシャンの方、そしてパティシエの方、その方々と今のところあまり顔を合わせる機会は少ないんですけれども、公民館の掃除ぐらいですね、また周知していきたいと思っています。

以上です。

教育部長　三郷西部認定こども園の民営化につきましては、大変申し訳なかったと思っております。最初の説明のあたりから地元の皆さんとのコミュニケーションが少しずれていたかなということで、うまくいかなかったところが全ての出発点になったのではないかと、とても反省しているところでございます。

その後、地元の皆様からたくさんのご提言などを頂戴いたしまして、民設民営から公設民営に転換するなど、どういった形が一番三郷西部認定こども園にとっていい方向なのかというのを探ってきて、やっと建物の建築が今進んでおります。予定どおりに進んでおりますし、民営化につきましては、ただいま、運営をしていただく民間の皆様を募集するプロポーザルを行っているところでございます。

是非とも三郷西部地域の中で今まで培ってきたものをしっかり引き継いでいただけるようなすばらしい業者を選んでいきたいと思っているところでございます。

以上でございます。

◎その他

市長　その他、ありましたらお願いします。

（発言する者なし）

市長　なければ、感想も含めて教育長からまとめをお願いします。

教育長　今日は学校・園の魅力、特色を高めるというテーマで話合いがなされました。その中で私が強く思ったのは、特色、魅力を高めるということは、子どもたちが通いたい園・学校になることで、そして地域にも園や学校が是非必要で、こういうふうになってもらいたいんだということを伝えて、一緒にその特色や魅力を高めていく、このことが非常に大切なんだなと強く感じました。

安曇野市は太田市長が就任されて、これまで持っていた文化、歴史、芸術、あるいは自然、景観、こういったものの魅力を内外に発信していこうという強い決意の下に市政のかじ取りをしてくださっているのですが、そこに安曇野市の教育というものも加えて、是非安曇野に来て教育を受けさせたいんだと言っていただけるようなものに高めていけたらと、そんな気持ちでいっぱいでございます。

委員の皆様には、17校プラス園を訪問するという並大抵ではないことを、大変な中予定を組んでいただいて、その中で肌で感じていただいたことを今日お伝えいただいたこと、改めて感謝申し上げてまとめとさせていただきます。

ありがとうございました。

市長　それでは、私からも一言申し上げます。

本日は本当に皆様、それぞれのお立場で現場を見ていただきまして、そういった活動も含

めて貴重な意見を賜りました。私の分からなかったところについても大変なご理解をいただきましてありがとうございます。

今日いただきました意見、大変貴重な意見でございますので、これからも教育委員会と共に市内の小学校・中学校、そしてこども園、こういったものをもっとより良くするために努力してまいりたいと考えております。

ありがとうございました。

◎閉　会

教育部長　本日の会議はこれで全て終了となります。大変ありがとうございました。

以上で閉会といたします。